

中筋川ダムが中筋川の水位を下げました

～平成30年9月秋雨前線における中筋川ダムの防災操作～

- 秋雨前線の降雨により、中筋川ダム上流域では、9月12日11時から13日24時までの累計雨量で296mm、最大時間雨量で約50mm(12日23-24時)の降雨となりました。
- この降雨により中筋川は下流の磯ノ川地点で、避難判断水位(7.40m)を超過しました。
- 中筋川ダムでは、ダムへの最大流入量(毎秒約111m³)の約74%をダムで貯留し、ダム流下量を毎秒約29m³に低減しました。これにより下流の磯ノ川地点の水位を30cm程度低下させ、浸水被害の軽減に役立ちました。また、横瀬川ダムが完成していた場合は、さらに10cm程度の水位低減効果が見込まれます。

※本資料の数値等は推定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

平成30年9月14日

国土交通省 四国地方整備局

中筋川総合開発工事事務所

問い合わせ先

国土交通省 四国地方整備局 中筋川総合開発工事事務所

電話(0880)66-0142

副所長	森本 修三	内線(204)
管理課長	宮崎 泰典	内線(6121)
◎調査設計課長	渡辺 雄二	内線(351)

◎主な問い合わせ先

なかすじがわ よこぜがわ 中筋川ダムの効果と横瀬川ダムに期待される効果(高知県・渡川水系中筋川)

- 秋雨前線の降雨により中筋川ダム上流域では、9月12日11時から13日24時までに累計雨量で296mm(時間最大雨量50.1mm・9月12日24時)の降雨を観測しました。
- 中筋川ダムでは、ダムへの最大流入量111.07m³/sの**約74%をダムで貯留し、磯ノ川地点の水位を30cm程度低減**
- ※床上90戸を含む浸水家屋118戸の内水被害があった平成26年6月洪水時の磯ノ川地点の水位は7.65m
- 横瀬川ダムが完成していた場合には、さらに**10 cm程度の水位低減効果が期待できた**と推定されます。
- 国道56号線においては、9月13日9時50分～17時40分まで冠水による全面通行止めが生じましたが、横瀬川ダムの水位低減効果により、**冠水による通行止め時間の短縮**が見込まれます。

